

令和4年度 学校評価自己評価表（中間） 海田町立海田東小学校

学校教育目標 考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり（EAO）
 ―「よく学び」「よく遊び」「やさしく強く」―

中期経営目標	短期経営目標	取組・評価項目	評価指標	評価基準				自己評価（中間）		
				A	B	C	D	中間値	評価	結果と課題の分析
				目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない			
知	自分の考えを深める子 ・確かな学力を身に付けた児童の育成 ・授業で深く思考する児童の育成	・「海田町標準学力調査」(CRTの結果)	・「海田町標準学力調査」全国平均正答率との比較（全国平均正答率以上の教科の割合）。	75%以上	65%以上	60%以上	60%未満	標準学力調査の実施前のため中間は評価なし	A	・振り返りの観点「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」を引き続き活用する。 ・单元終わりに必ず振り返りを書かしている。 ・1年生も振り返りを書き始めた。 ・記述内容を紹介したり、授業に取り上げたり、肯定的な評価を返したりすることが今後の課題である。
		・振り返りを通して、主体性、自己理解を高める授業の実施	・児童アンケートにおける、「学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。」の児童の割合。	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満			
徳	自分や友だちのよさを認めようとする児童の育成 ・児童の自己肯定感を高める ・時と場に応じた挨拶ができる児童の育成 ・場を美しく整えようとする児童の育成	・行事等における「よいとこ見つけ」の取組 ・児童の自己肯定感を高める日常の取組	・児童アンケートにおける、自分には良いところがあると考えている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児83%	A	・児童アンケートの結果では、児童の自己肯定感が高いことがわかる。 ・良いところ見つけや、帰りの会での「今日のキラリ」などの取組や、縦割り班での学年の異なる教師による肯定的評価などが効果的であったと思われる。 ・しかし、高学年になるほど肯定的評価が下がっており、課題となっている。
		・あいさつ運動の実施	・児童および教師アンケートにおける、「あいさつや会釈をしている」児童の割合。 ・保護者・地域アンケートにおける、「わが子(海田東小児童)は、あいさつや会釈をしている」と考えている保護者・地域の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児87% 保83% 教63%	B	・児童や保護者の評価と、教師の評価の差が大きい。これは、教師の求める基準が高いところからくるものと考えられるが、ある程度の基準は満たしていると思われる。
		・黙黴流汗清掃の指導の取組	・児童および教師アンケートにおける、黙黴流汗清掃をしている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児89% 教84%	A	・縦割り班掃除では、6年生のがんばりによって、低学年も掃除の仕方が分かるようになり、静かに集中して取り組んでいる。
体	進んで健康・安全を考える子 ・基本的な生活習慣の定着に取り組み、元気に過ごそうとする児童の育成 ・人や自分の命を大切に生活しようとする児童の育成	・基本的な生活習慣の定着のための指導の取組	・生活リズムカレンダーでの「早寝ができた」の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児75.6%	B	・保健委員会が早寝・早起きの必要性をプレゼンし、意欲を高めることができた。しかし、「早寝ができた」の割合は15.6%であった。高学年になるにつれて就寝時刻が遅くなる傾向にある。また、習い事の多様化により、放課後の時間に余裕がない児童が多い。
		・外遊びの指導の取組	・児童および教師アンケートにおける、「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	児80% 教85%	A	・「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合は80%であった。1学期は熱中症予防により外で遊べないことが多くあったが、遊べる時には外で遊ぶ児童が多い。縦割り班での活動が充実したことで休憩時間に学年を超えて遊ぶ姿が増えた。
		・避難訓練・防犯教室・SNS教育の取組	・児童および教師アンケートにおける、自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている児童の割合。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	児93% 教71%	B	・93%の児童が肯定的評価をしている。1学期は感染症対策により、教室で映像資料などを見ながら学習を進めた。児童の興味ある動画や資料を扱うとともに、学習後にテストを実施し防災認定証を渡すなどして、意欲的に取り組む工夫をした。
信	信頼される学校 ・家庭・地域と連携し、信頼される学校を目指す	・迅速・誠実・丁寧な対応、意図的、計画的な家庭訪問の実施	・保護者アンケートにおける、学校の取組を信頼できると考えている保護者の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	保97%	A	・「学校は、信頼できる取組を行っている」保護者アンケートの結果、肯定的評価が97%であった。学校として組織的な取組を進めている結果、どの学年の取組においても保護者の信頼を得ることができていると考える。
		・HP、学校・学年だよりによる情報の発信	・HPを月2回以上更新。 ・学校だより、学年だよりを月1回以上発行。	90%以上	85%以上	80%以上	75%以上	100%	A	・今年度当初から、担当者を明確に定めたことで、8月まで学校だよりも含め、ホームページを月に2回以上更新できています。学年履も、各学年月1回以上出すことができている。
		・保護者・地域と連携した授業の実施	・保護者・地域の方参加型の授業を各学年1回以上実施。	全学年1回以上	全学年1回	4学年	4学年未満	2学年	D	・保護者・地域参加型の授業を現在は2学年が実施している。コロナ感染症対策のため実施が難しい。
		・「児童と向き合う時間」を確保	・教職員アンケートで「児童と向き合う時間の確保ができている」の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	教92%	A	・教職員のアンケートの結果から、「児童と向き合う時間の確保が「できている」「ほぼできている」と回答した割合は92%であった。水曜日、木曜日や成績をつける時期には、下校時刻を早めるなど職員員の放課後の時間確保に努めたことが良い結果になっていると考えられる。